

CJD診断に対するReal-time QUIC法と14-3-3タンパクの感度・特異度の比較

研究分担者：（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科）（新竜一郎）

	CSF samples in Japan [Pilot study]		CSF samples from Australia [Blind study]	
	RT-QUIC	14-3-3 (γ -isoform)	RT-QUIC	14-3-3 (all isoforms)
Sensitivity	83.3% (15/18)	72.2% (13/18)	87.5% (14/16)	87.5% (14/16)
Specificity	100% (0/35)	85.7% (5/35)	100% (0/14)	71.4% (4/14)

Positive samples/number of samples is shown in parentheses.

解 説

- Real-time QUIC法の結果、日本のCJD症例18例中15例で陽性であった。一方、陰性コントロールとして用いたCJD以外の疾患由来の髄液35症例はすべて陰性であった。オーストラリアから送付された30例によるBlind testではCJD14/16で陽性、非CJD髄液ではすべて陰性であった。
- 上記の結果はこれまでCJDの髄液マーカーとして用いられている14-3-3タンパクを感度では同等、特異度では上回るものであり、Real-time QUIC法のCJDに対する診断的意義は非常に高いと考えられる。